

NEUVE A NEWS RELEASE 2010 OCT

PINK RIBBON CAMPAIGN

loveわたし。

自分の体にも思いやり。



TiC TAC ROSEMARY annabeille © NEUVE A CO.,LTD.

NEUVE A ピンクリボンキャンペーンに関するお問い合わせ先

〒150-0045 東京都渋谷区神泉町8-16 渋谷ファーストプレイス 10F

チックタック事業部 幅尚子 TEL:03-5428-2630 E-MAIL:n-haba@neuve-a.com

ローズマリー事業部 塚田良枝 TEL:03-5428-2633 E-MAIL:y-tsukada@neuve-a.com

総務・人事部 佐藤恵美子 TEL:03-5428-2600 E-MAIL:e-sato@neuve-a.com

10月からチックタックがピンクリボン活動をスタート！ NEUVE Aのピンクリボン活動がパワーアップします。

2009年10月から櫛ヌーヴ・エイでは、コスメショップ「ローズマリー」と、レディス雑貨ショップ「アンナベール」で、乳がん検診受信率向上を目指したピンクリボン活動を行なってきました。2010年10月から、より多くの方に乳がんの正しい知識や検診の大切さをアピールするため、チックタックが活動に参加します。

■活動内容 年間を通して行なうチャリティ&啓発活動

●チャリティ募金

ショップレジカウンターにピンクリボン募金箱を設置してお客様からの寄付金をお預りします。寄付金はすべて「NPO法人 乳房健康研究会」へ寄付し、「乳がん啓発活動」に役立てられます。

●啓発活動

●ピンクリボンパッチ運動



スタッフがピンクリボンのシンボルパッチを着用することで啓発活動を行ないます。パッチ購入代金の一部はNPO法人 乳房健康研究会のチャリティ活動資金に充てられます。

●WEBサイト掲載

チックタック、ローズマリー、アンナベールの公式サイト、モバイルサイトでピンクリボン活動の告知を行ないます。(アンナベールはモバイルサイトのみになります。)

●店頭告知



POP、ポスターを店内に掲示して、乳がん啓発・乳がん検診の関心を促す呼びかけをします。

■実施店舗

ヌーヴ・エイショップ全国90拠点(チックタック:61店舗・ローズマリー:22店舗・アンナベール:7店舗)



TIC TAC



ROSEMARY



annabelle

PINK RIBBON CAMPAIGN 10.01(fri)>>>12.31(fri)

世界的にもピンクリボン運動の強化月間として注目が高まる10月にキャンペーンをスタート。例年たくさんのお客様にご来店いただいている11月、12月をあわせた3ヶ月をヌーヴ・エイの「ピンクリボン強化月間」として、キャンペーンを展開します。

■チャリティ アイテム販売

対象商品の売上金(1点につき100円)を寄付します。

売上の一部がNPO法人 乳房健康研究会に寄付されるチャリティアイテムを、チックタックローズマリー・アンナベールの各ショップで販売。お客様には楽しくお買い物をしながら、ピンクリボン活動にご参加いただけます。

対象商品



TICTAG
オリジナルレディスウォッチ
「Plum Kids」

親子でも着けられる
かわいいキッズ時計。



ボーダー、ドットパターンで全7色。各4,725円。



ROSE MARY
"WELEDA"他
スキンケアアイテム

ピンクをイメージした
女子力UP↑アイテム



このほか全25アイテムが対象。(717円~6,300円)



annabelle
オリジナル キャスケット

コーディネート
の定番、キャスケット



各2,940円

各3,675円

それぞれのデザインでカラー展開。全12アイテム。

■リーフレット配布

乳がんのセルフチェックと、検診を案内する、ピンクリボンリーフレットを8万部作成。各店の店頭で配布します。リーフレットの配布はなくなり次第終了とさせていただきます。





NPO法人 乳房健康研究会とは？

日本の女性に乳がんの実態をもっと知っていただくために、設立されました。乳がんの早期発見、早期治療の重要性を唱えて、活動しています。

活動例

● ノバルティス マンモグラフィ体験キャラバン

乳がんで命を落とす方をへらすため、早期発見のためのマンモグラフィ体験イベントを開催。時間や機会がないから、恐いから、マンモグラフィを受られないそんな方に気軽に体験していただくチャンスです。あなたと、あなたの乳房をまもるために、「マンモグラフィ」をぜひ体験してください。



● ピンクリボンパッチ

乳房健康研究会のピンクリボンバッジは金緑、銀緑の2種類。乳がんに関する基礎知識をまとめたリーフレットをセットにし、500円以上のご寄付をいただいた方にお渡ししています。皆様からの寄付金は、乳がん啓発のためのさまざまな活動に活用させていただきます。あなたのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

※これらの活動に賛同し、ヌーブ・エイは乳房健康研究会の活動をお手伝いします。



霞 富士雄 癌研究会附属病院 乳腺外科部長
(設立当時、現 順天堂大学附属医院・乳腺センター長)

先進国の中で最も乳がんの少ないわが国でもこの10年に乳がんの増加が目立つようになり、医学統計やマスコミを通して、注意が必要であるとの報告がなされています。乳がんは日本で年々着実に増加し、すでに1985年に患者数でみて子宮頸がんを抜きました。これらの統計的動向を裏付けるように、身内や友人の乳がん手術、あるいは死亡の通知などが私達の日常の会話に入り込むようになってきています。

私はこの30年間、癌研病院でこの乳がんの増加ぶりを見てきました。その増加は爆発的とは言えないのですが、戦後から経年的に右肩上がりの激増を重ね、気が付いたときはその増加の程度は相当なところに達してしまいました。しかし、わが国ではがんと言えば胃がん、子宮頸がんの概念が強く続きました。いつの間にか多いがんの種類が変わってしまっており、現在日本女性のがん患者で多いものはまだ胃がんが第一位ではありますが、次いで、大腸がん、乳がんとなっています。乳がんは3番目ですが、上位との差もわずかとはいくらくらいまで増えているのが実情なのです。しかし、日本女性の意識の中に、この乳がんの増加はまだまだ食い込むまでは至っていません。胃や子宮には思いを馳せても、乳房など考えてもいない女性が大部分なのです。通常の女性はブラジャーには配慮しても、乳がんの増加を考えて自分の乳房それ自体に気を配ることは限られたもので、まだ少数に留まるといえるのが実情です。いやそれ以前に、たとえ乳がんの増加を心配しても、依然として自分には関係のないものとして乳房には注意を払わないばかりか、これまでともに自分の乳房を念入り触ったことがないと平然と言う女性が多いのです。どうして女性はこれほどになるまで、自分のがんを進ませるのでしょうか。このような方々は、自分の乳がん早く気づくことができないのでしょうか。

いや、これはほとんど確実にできるはず。このような場合、乳がんには誰が触っても異常なしこりが触れるのです。従って問題は自分で乳房を触ろうとしない、あるいはいつか自分も乳がんになるかもしれないと自覚しないことに原因があります。自覚さえあれば、自分の乳房のしこりという異常に早く気づくのは十分可能です。最近、乳がん全身病説という考え方がアメリカから拡がり、この考えを少し拡大解釈して「早く乳がんを発見してもすでにその人の運命は決まっている」などと主張する人がいます。でも、乳がんは小さい間に発見すれば、それに応ずるように手術成績は良好で、1cm、2cm、3cmと大きくなれば、それだけ成績は不良になるのです。

私は乳がん外科医として、私の前に来てくれる乳がん患者の手術に明け暮れています。毎日の手術をきちんと行うことが私の重要な義務でしょうが、このような進行乳がんを毎回見るにつけ、「わが国では乳がんが決して早期発見されていないこと」「いつかは自分も乳がんになるかもしれないくらいに乳がんが増えていること」「異常なしこりの発生に細心の注意を払って自己検診を行い、ひいてはマンモグラフィ検診を受けること」の大切さを女性に訴える会を作ること、これまた非常に重要な責務であると考えているに至ったのです。

